

としま 学びスタイル

～豊島区生涯学習推進計画～

OUR STORY

2020-2024

誰もが主役になれるまちづくりの実現に向けて、
他者とともに「生きる力」をつけるとしまの学び

OUR STUDY

1. ともにつくる「としま学びスタイル」

目標

区民が主体の**学びの循環（わ）**をいかす 「としま学びスタイル」

基本的な考え方

ビジョン

案1 生涯学習を通して、すべての豊島区民がいきいきと暮らす未来、魅力的で持続可能なまちづくりを共に考えつくる未来を、学びを通して実現することをめざしています。

案2 誰もが主役になれるまちづくりの実現に向けて、さまざまな人との交流を通して「生きる力」をつける学び

学びの範囲

小さな子どもからお年寄り、外国籍の人や障がいをもつ人など、あらゆる人の、個人・仲間同士・グループ・団体や組織での学びを含みます。学ぶなかみや場所もさまざまですが、この計画ではとしまの中で学びをねらいにした活動を指します。

区民が主体

区民の一人ひとりが主役です。なんのために学ぶか、どうやって学ぶか、どこで学ぶかも自由で、自分にあったものを選びます。自分のスタイルを見つけるまで、いろいろと試してみることもできます。新たに自分好みの学びを創ることもできます。いっぺんにいろいろとやってみることもできます。学び合いが、居場所や生きがい、仲間を見つけることにつながります。

学びの循環（わ）

学びと活動は循環しています。学びが、新しい興味を生んだり、周りの人や地域への関心を湧き立てたりして、次の学びにつながる場合があります。学んだことを試したり、活かしたりすることへつながることもあります。今やっている活動が学びを求めることもあります。どこから始めてもかまいません。

学びの循環は地域コミュニティの中にもあります。世代や国籍を超えて豊島の中ではぐくまれ、受け継がれ、作り直され、活気ある地域コミュニティを維持し、新しい文化を創造していきます。

としま学びスタイル

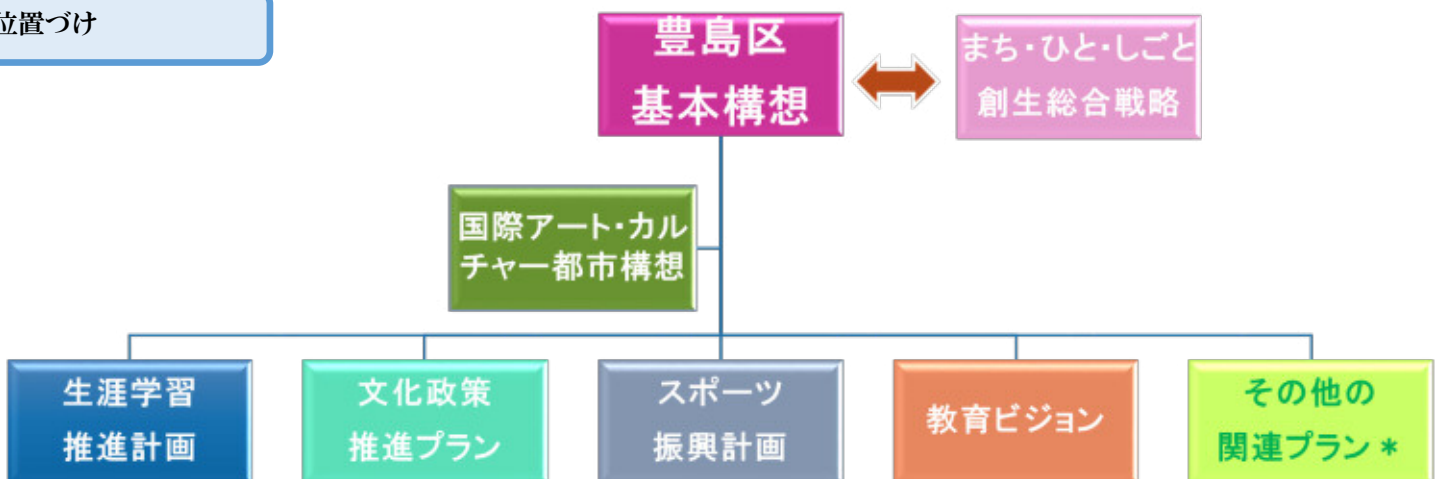
都市ならではのたくさんの学びの場があり、最先端の学びがあり、深い学びがあり、地元ならではの学びがあります。そして、誰もがある時には学びの初心者でもあり、またある時にはベテランでもあり、仲間でもあり、支援者でもあります。その時々に応じて、学ぶなかみ、学び方、関わり方などをしなやかに変えながら、ゆるやかに学びが一人ひとりと地域をつなげます。誰もがとしま学びスタイルの主役であり、担い手であり、創り手なのです。

(*ほかの項目と内容が重なってしまうので、不要か)

計画期間

2020年度から2024年度まで

位置づけ



* その他の関連プラン・・・子どもプラン・豊島区多文化共生推進基本方針・男女共同参画推進計画等

2. 豊島区の現状

豊島区では平成26年に23区で唯一「消滅可能性都市」との指摘を受け、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「女性にやさしいまちづくり」「高齢化への対応」「様々な地域との共生」「日本の推進力（国際アートカルチャー都市関連）」を4つの柱として持続発展都市を目指す様々な施策を展開しました。そして、その成果が現れ始め、平成29年には、日経DUALの「共働き子育てしやすい街ランキング2017」総合1位に選ばれ、さらに、女性にやさしいまちづくりを前進させ、区内企業とパートナーシップ協定による公民連携も進めています。平成30年にはセーフコミュニティの再認証、平成31年「東アジア文化都市」にも選定され、国際アートカルチャー都市の推進に向けて力を注いでいます。

日本一の人口密度

1ヘクタールあたり222.5人（平成31年1月現在）

外国人が多い

総人口に占める外国人の割合が10.1%で全国で10番目、東京都では新宿区に次いで2位、110か国以上の多国籍の人が住む。

進む少子高齢化

総人口に占める0歳～14歳の年少者の割合は8.8%で、23区では中野区に次いで2番目に低い。

一人暮らしの高齢者の割合で75歳以上は全国一位、65歳以上でも渋谷区について全国2位で高齢化が進む。

○7大学など10万人が学ぶ

学習院大学／川村学園女子大学／女子栄養大学／帝京平成大学／東京音楽大学／大正大学／立教大学
・私学など、約130の教育機関

○巨大ターミナル池袋

・一日乗降客264万人
・サンシャイン60

○住と商のバランス

・商業地「池袋」、周辺は住宅地
・約50%はマンション世帯

○おばあちゃんの原宿 巣鴨地蔵通り商店街

・年間850万人が訪れる



○マンガの聖地「トキワ荘」

・手塚治虫、赤塚不二夫らが過ごしたアパート
・手塚治虫が住んだ「並木ハウス」は現存

○池袋モンパルナス

・小熊秀雄、熊谷守一、寺田政明らを育てた、“芸術家が交流するまち”

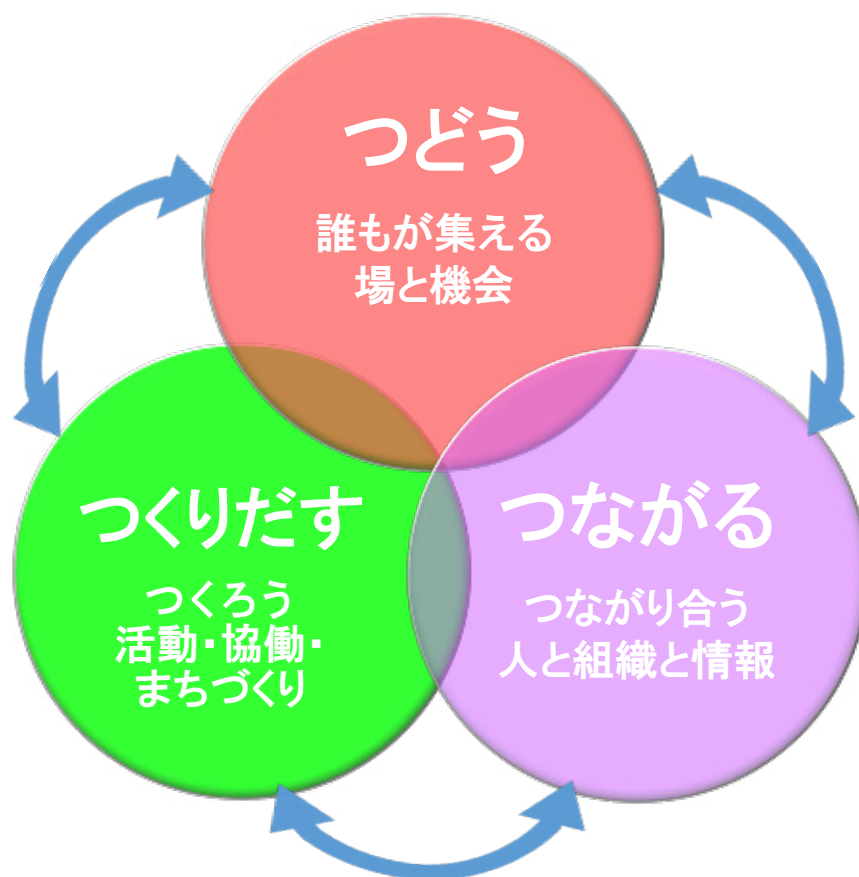
○ソメイヨシノ桜 発祥の地"駒込"

・江戸時代は園芸の土地

○国重要指定文化財 雑司が谷「鬼子母神」

・自由学園明日館、長崎富士塚

3. 「としま学びスタイル」 3つの基本理念



〇つどう ～誰もがいつでも学べる

誰でも自分のスタイルで、自由で多様な学習ができるよう、生涯学習環境や活動拠点、学習機会を整備します。

〇つながる ～人・学び・情報がつながり広がる学び合い～

学びを通じた新たなつながりを生み出すために、学習情報の収集・発信の仕組みづくり、学習相談体制の整備、交流の機会づくり、コーディネートに取り組みます。

〇つくりだす ～学びから活動、新しい文化の創造へ～

学びを活動へとつなげ、学びの循環（わ）をつくるために、学習活動のネットワークや組織化・社会化の支援、多様な活動間の連携・協働を推進します。

文化施策の推進役としての「学び」

豊島区の目指す「国際アート・カルチャー都市」とは「芸術文化」という言葉で一般的にイメージされる枠組みを超え、伝統な文化から先端的な文化まで、衣食住に関わる生活文化からハードな都市づくりまでをも含み、アートの持つ想像力・創造力で、カルチャーの語源そのままに、まちを耕すことを意味します。

まちを構成する多様な人々の参加と協働により、アート・カルチャーのまちづくりを展開していくことで、世界中の人々を魅了し、持続発展する都市の実現を目指します。

その中で生涯学習は「国際アート・カルチャー都市」施策の推進力となるエンジンの役割を果たしています。区民が主体の学びの循環（わ）を活かしながら、学ぶという営みをとおして地域の良さや強みを知り、課題解決へとつなげられるものだからです。

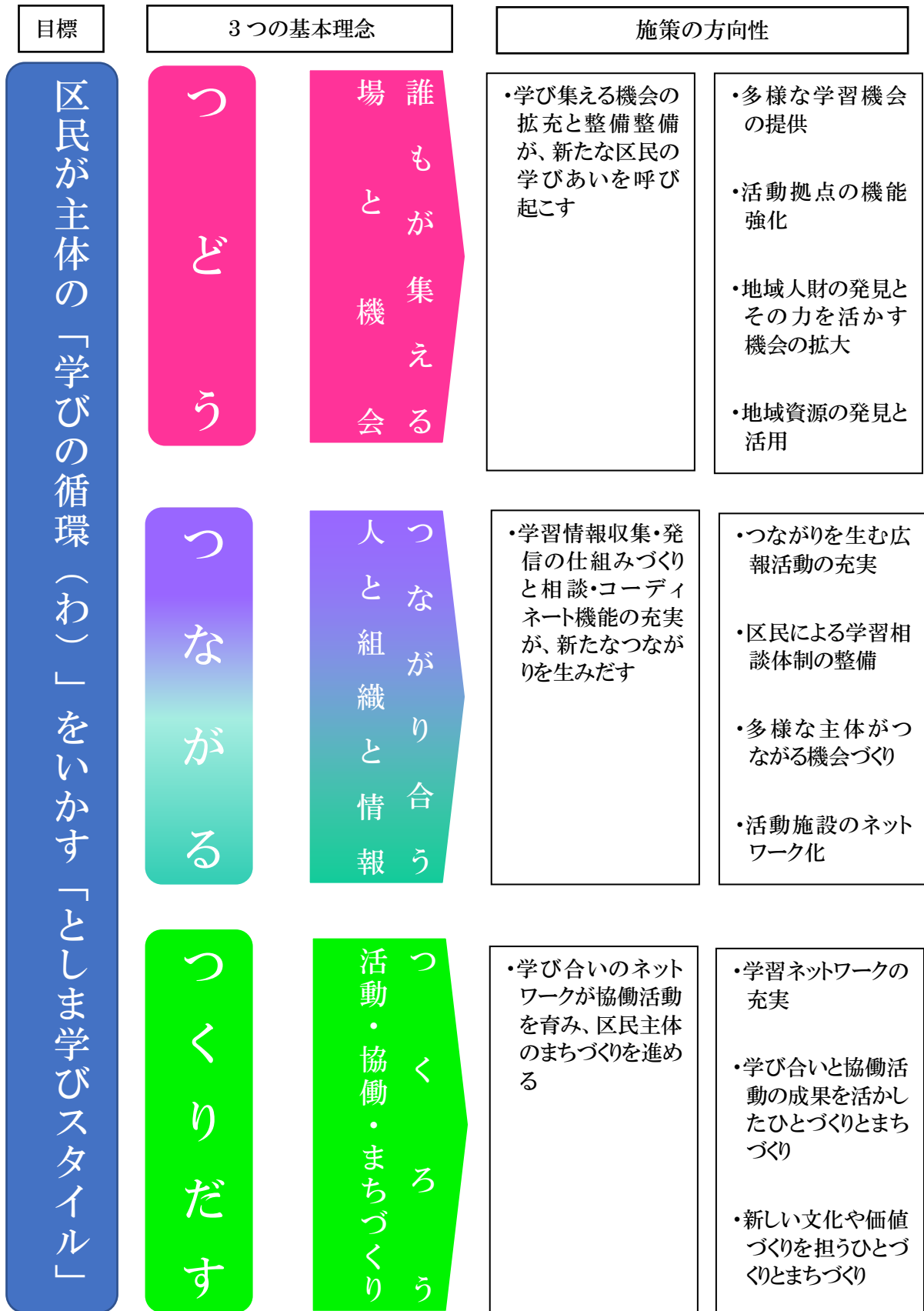
〇としま学びスタイルの実現に向けて

・前期計画の成果と課題

目標	基本理念	施策の方向性	成果	課題
<p>区民が主体の「学びの循環（わ）をつくる</p>	<p>つどろ</p>	<p>生涯学習の環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と講座開催施設数はどちらも約3.3倍に増え、多様な学習の機会が担保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の解決に向けた学習機会は引き続き必要 ・学んだ成果を生かして自主的に講座を開催できるような環境整備は必要
	<p>つながる</p>	<p>情報提供・コーディネート機能の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習事業に関する展示やメールマガジンを活用した情報提供 ・窓口での学習相談への対応 ・日本語を教える自主サークル支援を通じた多文化共生への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・区のHP上での情報の整理 ・区民による学習相談の機会がない ・生活者の視点に立った多文化支援ができるような機会が必要
	<p>つなげる</p>	<p>個の学びから社会的な学習活動への転換</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・としまコミュニティ大学としま学から発展した「マナビト生」制度による学びの広がり ・エリアガイドボランティアが4団体に増加し、横の連携を図る研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・個の学びを尊重しつつ、学びあう仲間同士が小さなコミュニティを形成する ・施設や団体間で横の連携を図る機会が必要
	<p>つくりだす</p>	<p>学習活動のネットワーク化の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な活動間の連携・協働事業は1.3倍に増加している。 ・生涯学習のネットワークづくりのための「学習ネットワーク交流会」を平成28年度から実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動のネットワーク化を進め、活動をふりかえり、新たな価値をつくりだす機会は必要 ・生涯学習という幅広い概念を生かし、緩やかに横のつながりをつくることは必要

・施策の体系図（仮題）

前期計画では4つの基本理念でしたが、「つながる」と「つなげる」を効果的にわかりやすく推進するため「つながる」にまとめ、3つの基本理念としています。



4. 「としま学びスタイル」を支える仕組みとしかけ

(1) つどう

○多様な学習機会の提供

・多様なニーズに対応し、様々な分野を学べるよう、庁内の関係部署、外部の関係機関、民間や団体との連携により講座を提供する。

○活動拠点の機能強化

・区内の学習施設や文化施設などで、活動の見える化を図る。
・地域の学習施設で、地域課題の探求や学びの成果を地域に還元できる取り組みを進める。

(事例)

「図書館通信」(中央図書館年4回発行)では、としまコミュニティ大学で学び続けている区民の方が毎号3人ずつ登壇し、テーマに合わせてお薦め本の紹介と200字で書評を寄稿しています。学びの成果が他者から認められ、地域へ還元する機会を発信する場としています。



○地域人財の発見(掘りおこし、発掘)とその力を活かす機会の拡大

・学習の成果を発表できる機会の拡大。
・活動の成果が地域に還元できる機会の創出。
・活動する人や団体同士の連携を深める場づくり。

(事例)

地域文化創造館では、エリアガイドボランティア養成事業を実施し、4団体が地域のガイド活動を行っています。団体間で活動や学びを聴き合うことで、活動を未来につなげていきます。



(2) つながる

○つながりを生む広報活動の充実

・HPにリンクを貼り、検索のしやすさの工夫を図る。
・情報の見せ方の工夫を図る。

○区民による学習相談体制の整備

・学習支援者による、「区民による区民のための相談体制」をつくる。
・スキルアップの取り組みと推進

学習を支援する人の活動機会の充実と、スキルアップに取り組み、学ぶ人の相談や団体運営の支援の充実を図ります。

○区民や団体の交流機会の提供

・学びの活動を共有化するための学びや交流の機会の提供

○活動施設のネットワーク化

区内には、生涯学習の拠点となる場が公立、民間を問わず様々あります。すでに学習活動を進めている方は、自分の活動目的によって多様な施設を上手に使い分けています。そうした「人」をハブとして、多様な施設を「見える化」し、つなげていけるような仕組みを検討します。

2(事例)

学びの活動を共有化するために、学習施設で展示を行っています。



(事例)

としまコミュニティ大学で学ぶマナビト生が、男女平等推進センター(エポック10)の区民企画委員として講演会を開催。講演会の様子はエポック10の情報誌に掲載されました。人が施設をつなぎ、学びを広げています。

(3) つくりだす～区民主体のまちづくりを進める学びあいのネットワークと協働活動～

○多様な主体がつながる機会づくり（学習ネットワークの充実）

学びの実践者同士が出会える場は、お互いの活動がどのような意義や必要性を持つものなのかをふりかえり、より良い活動につなげる気づきの場となるとともに、お互いの活動に新たな価値を見出すきっかけにもつながります。学習活動者、学習支援者、講師、生涯学習施設など様々な立場の方が出会える場づくりを行っていきます。

(事例)

学習ネットワーク交流会を毎年実施しています。様々な立場の人が集って、自分自身の活動をふりかえり、他者の学びや実践を聞き取り、さらに学びを広げることで学びの循環（わ）をつくっています。ここでの学びが学習ネットワークの充実につながります。

○学びあいの成果を活かした協働のまちづくり

学びあうことも重要ですが、そこからさらに一歩進んで、学びあいから得た気づきや知識、経験を持ち寄り、違いを認めあいそれぞれの良いところを活かしあうという「協働」の視点を持ちながら、ともに地域をつくっていく機会を増やします。区民プロデュース講座の活用に取り組みます。

○新しい文化や価値づくりを担うひとづくりとまちづくり

様々な学びの機会を通して、豊島区の目指す「国際アートカルチャー都市」を実現するための手段の一つとして、学びを有効に活用します。何のために学ぶのか、何のためにこの事業を実施するのか、という問いを大切に、人々が議論しあい、探究できる場を担保することでよりよいまちづくりにつなげていきます。

(事例)

学びあいから、さらに自分たちが学びたいと思う講座を企画し、としまコミュニティ大学の「学んだ成果を地域につなげるプログラム」として発信しています。



としまの学びの場

学ぶ場
選択で

